

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0773200563	
法人名	有限会社 秋桜	
事業所名	グループホーム 虹の家	
所在地	福島県双葉郡浪江町大字立野字根渡183(仮設:福島県本宮市荒井字恵向121)	
自己評価作成日	平成28年8月15日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do">http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成28年9月23日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

原発事故により避難先であるが、地域に馴染みながら入居者ひとり一人がその人らしい生活を目指し、自分のペースで生活が出来るように支援している。生き甲斐を持てるよう、余暇活動や軽作業など積極的に取り組み、以前の生活歴から出来る事を探り、生活の中で取り組めるよう支援している。仮設住宅内にある立地を有効に、馴染みのある方々と行事やイベントに積極的に参加し、地域の方々との交流を大切にしている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者と職員は、利用者ひとりひとりの思いを汲み取る工夫をし、そのひとがそのひとらしく過ごせるよう日々取り組んでいる。  
地域密着型サービスの意義を理解し、事業所の行事に地域の方の参加を呼びかけたりボランティアを受け入れるなど、地域との交流を図っている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしさを大切に。虹色の家庭を目指す」を理念とし、リビングに大きく掲示、職員全員が意味を把握し、日々の生活に取り組んでいる。	理念を基に利用者のやりたい事を意欲的に聞いたり、担当者会議で本人も一緒に話し合い思いを叶えられるよう取り組んでいる。一人ひとりの生活のリズムを大切に、その人らしく過ごせるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	職員、入居者は仮設住民の一人として、地域の行事や奉仕作業にも参加し、コミュニケーションを取り交流を計っている。毎日散歩をし、顔なじみの方と会話している。定期的に広報誌を配布し、活動を周知している。	市の体験学習に中学生のボランティアや、定期的に社会福祉協議会の傾聴ボランティアを受け入れ利用者と交流している。虹の家祭りに自治会の協力や県外の大学生と教授の参加があり、楽しい時間を過ごして貰っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は、特に行っておらず、地域包括との話し合いで、今後は認知症カフェ・サロンといった取り組みを視野に話し合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回、実施している。参加率が良く、施設においての取り組みや地域(仮設住宅内)との取り組みを話し合いながら、運営に反映出来るよう、自治会長や町の担当者と協議しながら、サービス向上に取り組んでいる。	自治会の方から、花いっぱいプロジェクトの話があり、花を植えることが好きな方に参加して貰っている。事業所の移転について町と地域との情報交換や進捗状況を説明したり、祭りに協力して貰えるよう話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議の参加、浪江町介護支援専門員連絡会の参加など、市町村との連携を密に計っていると、仮設住宅内においての運営に関する相談や実施している取り組みを報告しながら、市町村担当者と連携し事業に取り組んでいる。	町からケアに関する研修の案内などを知らせて貰っている。地域ケア会議に参加し、町の様子や入居を希望する方の情報を得るなどしている。移転に伴う事柄について、行政の協力を望んでいることを発信している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、管理者・リーダーを中心に、身体拘束を行わないよう、日々のケアに取り組んでいる。また、研修に参加し、意識を高め、情報を共有することで、職員と話し合いを行ないながら、ケアに取り組んでいる。しかし、スピーチロックなどの理解に不十分な面も見られ、現在取り組んでいる。	身体拘束はしないことを基本にしている。管理者はことばの拘束について、気付いたときはその場で注意し、不安にならないようにしている。ひとり歩きする方には、職員と一緒に出かけ見守りをして貰っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待がないよう、管理者・リーダーを中心とし、虐待予防に取り組んでいる。また、研修で学んできたことを全体会議等で報告、検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加し、理解を深めている。現在利用されている方はいないが、該当者がいれば、支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項や生活状況等について十分に説明し、話し易い雰囲気の中で家族の疑問にも答え、納得した上で契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の要望等は職員に伝えると同時に運営に反映しているが、外部者への機会は設けていない。	家族の方から看取りについて話しがあり、不安にならないよう事業所の取り組みを伝えている。利用者の日々の生活状況を電話などで伝え、要望を聞いたり面会に来て貰えるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員個人から運営に関する疑問があれば改善し、全職員に周知して働く意欲の向上に努めている。	利用者が好きなことに熱中して、長時間椅子に座っているので足のむくみ予防に職員からの要望で足置きを用意したり、マッサージ機を購入している。ミーティングで意見や提案を話し合い、ケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年齢や経験、資格や能力を評価した給与を設定している。人員配置や勤務表にも配慮し、年休や勤務交換がやり易い環境を作り、働きやすい職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の自己評価表を作り、自己の力量の把握と意識の向上を図り、全体会議での内部研修や個人の経験に応じた外部の研修を計画的に受けている。その他、資格取得の費用も助成し、資格取得を奨めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームの管理者による情報交換会への参加や、他グループホームとの職員による訪問交換会を実施し、サービスの向上に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実態調査を含め、本人と対話しながら要望やサービス内容を決定している。入居されてからも、徐々に環境に慣れていただくよう配慮しながら、話を傾聴することで信頼関係を深め、安心して暮らせるよう、寄り添ったケアに取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネ、施設代表者を中心に入居前に経緯や不安なことを聞き取り、新たな要望等がないか、こちらから伺い、話しやすい雰囲気で行なうよう心掛けている。入居後も、職員が丁寧な対応に心がけ、より良い関係作りに取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態、ご家族の意向など、総合的にアセスメントを行い、必要な支援をチーム全体で検討、サービス提供に活かしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の能力や希望に応じたお手伝いを行ってもらい、共に生活をしているという共感を得ながら、関係作りに取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会、広報誌、浪江町ホームページ投稿掲示板に日々の生活を情報発信している。また、常日頃の状態を手紙や電話連絡をすることで、より良い関係作りに取り組んでいる。家族からは、日頃の様子が見えて安心すると好評である。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	仮設住宅内の馴染みある方や同じ地区出身の方と面会したり、自宅へ訪問したりと、関係が途切れないような支援に努めている。また、友人の方には手紙や荷物を送るなど途切れないような関係作りに取り組んでいる。	散歩のときに声をかけて貰ったり、縁側で話し込んだりこれまでの関係が継続できるようにしている。近くの床屋さんに行ったり、来て貰ったりしている。家族の方に利用者の思いを職員が代筆して手紙を出すなど、安心して貰えるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者ひとり一人の性格や他入居者との関係など全体的に職員全員で話し合い、より良い関係作りを努めている。また、日々変わる状況に合わせて、毎日の申し送りを利用し、対策を検討している。孤立しないような交友関係を考慮し、安心できる環境で話しやすいよう、職員が支援している。また、力量に合わせたお手伝いを入居者同士で行って頂くことで		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院され、退院の見込みが立たない方が退所されたが、その後もお互いの状況報告など情報交換を行い、心のサポートに努めていた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしく暮らせるように、本人やご家族から聞き取り調査を行ない、意向に添ったケアを最大限実現できるようケアプランを作成し、日々の生活の中に随時取り入れられるような体制で取り組んでいる。	利用者の日頃の生活から関心を示した事を、職員が気づきノートに記載し、全体会議で話し合い実践できるようにしている。。困難な方には絵や写真を見て貰い、思いを発せられるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、ご本人、ご家族からどのような生活をされて、生きがいを得ていたのかしっかりとアセスメントを行ない、職員全体で把握に努め、充実した生活が送れる様なサービスが提供できるよう、チーム全体で話し合いを行なっている。また、入居後も生活歴など聞き取り、サービスに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のペースを尊重しつつ、その日の体調などしっかりと観察し、状況に合わせた生活の支援に努めている。また、職員は本人に何が出来るかを常に模索し、能力に応じたお手伝いを促し、生きがいを持って過ごせるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にご家族の意向を聞き取り、尊重しながら、本人、職員、計画作成者が話し合いのもとで、何が必要かを考え、その人らしい生活が送れるよう、計画作成に取り組んでいる。	本人・家族の要望・意見や、訪問看護のアドバイスを取り入れるなどして介護計画を作成している。状態変化に応じて家族や医療機関と連絡を取り合い、そのひとに合った計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に添った個別の記録を「介護記録」として毎日記載している。介護記録は全員が確認できるように配慮している。その介護記録をもとに、計画見直しに活かしている。担当者会議後には、連絡ノートなどを利用し、ケアのポイントを記載し、取り組みやすいよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意向を尊重しつつ、その時に合わせたニーズに対応できるよう、職員全体会議や担当者会議からの吸い上げをすることで、マンネリしたサービスにならないように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	浪江町ホームページの投稿掲示板に情報を発信することで、ご家族、知人から喜びの声をいただいている。また、仮設散歩や行事や催しには積極的に参加し、地域住民や仮設住民との友好関係を大切にしている。ボランティアの受け入れにも力を入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本宮市の「渡辺クリニック」をかかりつけ医として、適切な医療を受けている。定期的を受診をし、日々の相談に乗っていただいている。また、必要な方には訪問看護サービスを定期的を受けている。緊急時の相談などにも対応できるよう連携をとれる体制となっている。	本人・家族が希望するかかりつけ医に受診できるよう支援している。家族の方の同行もあるが、要望があれば職員が代行している。受診結果は記録し、家族に伝え情報を共有し安心して貰っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員と看護リーダーが連携し、病院受診や往診、訪問看護が受けられるような体制を取っている。訪問看護の担当ナースからアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に面会することはもちろん、ケアマネが病院ワーカーと連携し、情報の共有を行なっている。病院から状況の報告をうけ、ホームの意向を伝えるなど、関係作りにも努め、病状に見合った病院へ入院出来るよう、かかりつけ医と相談できる体制をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期アンケートを作成。全入居者から意向を聞いている。その方の病状により、状態が悪化した場合には、その都度話し合いの場を設け、ホームでの終末期に向けた意向について取り組んでいる。	重度化・終末期のマニュアルを作成し、話し合い理解し適切に対応できるようにしている。協力医療機関や訪問看護の24時間対応で本人・家族に安心して貰えるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアルをもとに、急変時には即座に対応できるよう、マニュアルをいつでも確認できるリビングの一角に設けている。内部研修では緊急時の応急手当や、AEDの使用法など、消防士の方から指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難誘導マニュアルを作成してあり、避難訓練も実施している。また、地域の方にも、実際に車椅子を押すなど、避難誘導して頂き、協力体制に取り組んでいる。	消防署の協力を経て、避難訓練、避難経路の確認をしている。災害時には緊急連絡ボタンを押す事や火災の時は火元の近くの方から避難し、煙を外に出すようアドバイスを貰っている。自治会長に入居者の状況を知らせ、協力して貰えるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮した環境づくり、尊重した声かけを、職員全体で気をつけている。また、歩んできた人生観を踏まえた対応に努めている。対応には基本理念のもと、管理者・リーダーを中心に丁寧な対応を目指している。	管理者・職員は入居者のこれまでの生活歴や考え方を把握し、本人が希望する暮らしが出来るよう取り組んでいる。その人が好まないことばに気をつけたり否定しない声かけをし、本人の思いにそったケアを心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が、ご本人らしくいられるよう常に思いや希望を聞き取りしている。自分の意思が表出できない方などには、本人の人生観や性格など、普段から得られる表現から推測し、対応に努めている。また、そういった方こそ支援が必要であると周知し対応に努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本理念のもと、その人らしい生活が出来るよう普段から自分のペースで過ごせるよう配慮した対応に取り組んでいる。職員が決めたレクなどは基本行わず、好きなことに取り組めるような支援に努めている。また、起床時間、就寝時間など決まった時間はなく、本人のペースで自由に過ごしていただいている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	同仮設内にある美容室へ本人の希望のもと、定期的に利用して。また、美容室から出張を受けている。髪を整える支援にも取り組み、毎日過ごしやすいう取り組みを行なっている。また、気軽に好きな衣類・雑貨が購入出来るよう、買い物の支援に取り組んでいる。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、食事担当の係りが中心に立てている。その日食べる野菜・果物の皮むきを入居者の方に剥いて頂いたり、出汁に使用する煮干しの頭取りなど、日々食べることに關しての意識や意欲を忘れないよう支援している。食事は職員も一緒に同じものを食べ、会話をしながら楽しんでいる。後片付けは、出来る範囲で行なってもらえるよう支援して。	利用者一人ひとりの好みを把握し、その人にあつたメニュー作りをしている。季節の行事にはおはぎやかぼちやまんじゅうを作るなど、食欲を高め楽しく食事ができるよう支援している。ごはん茶碗とみそ汁碗と箸は好みのものを使っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事状況や摂取量を把握し、美味しく食べて頂けるような配慮に気をつけている。かかりつけ医と連携し、取りすぎ、不足な栄養素など細かな面へも対応している。水分摂取量が少ない方には水分補給ゼリーを提供し、健康管理に取り組んでいる。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声かけ支援や介助にて口腔ケア、義歯洗浄を行なっている。必要に応じて歯医者へ通院している。食前体操などにも取り組み、口腔内を健康に保つ取り組みに力を入れている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、排泄誘導を支援している。リハビリパンツから綿パンツへの移行へも支援し、快適に生活された方もいる。今後も、自立に向けた支援に取り組む。	オムツやリハビリパンツの方に根気良くあきらめないうでトイレ誘導し、布パンツへかわるなど自立に向けた支援をしている。失敗した時は、プライバシーに配慮し周囲に気付かれないよう居室で着がえるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事のバランスを考慮したり、毎日の食事に繊維質の食べ物、乳製品、果物を取り入れ、散歩や廊下歩行を行ない、便秘予防に取り組んでいる。また、便秘がちな方へは水分を多く摂って頂くよう配慮している。どうしても便秘になる方には、かかりつけ医に相談をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間は午後14時からと決まっているが、入居者の希望によっては午前午後関係なく入浴をいただいている。入浴方法は、その方のやり方を尊重して支援している。また、入浴剤や入浴後のヘアクリーム等のケアにも取り組んでいる。スキンケアも同様である。	一人ひとりの希望に合わせて入浴して貰っている。その人の好みのシャンプーなどを使って楽しく気持ちよく入浴できるようにしている。みかんやゆず湯にして季節を感じられるようにしている。嫌がる人には、シャワーや清拭で対応するようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由な時間に休めるように配慮し、一人ひとりのペースを考えて安眠を促している。また、部屋の温度調節や湯たんぽ、電気毛布の使用、アイソノンといった個人個人の希望に配慮し、安眠できるよう取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師から処方された処方箋は、職員が目に通せるよう医療ファイルを設け確認している。変更があった場合には職員全員に周知できるように連絡ノートを活用している。服薬に介助を要する方へは、職員が対応し安全に配慮している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	縫い物、園芸、手芸、お手伝い等の充実した生活が送れるよう支援をしている。気軽に要望が聞けるよう、随時職員から要望を聞き取っている。本人から訴える事が出来ない方にも、今までの生活歴を考え支援している。園芸では農業経験者の入居者のアドバイスのもと、職員と一緒に取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的な外出支援を行ない、買い物、外食を楽しんで頂いている。バス旅行の他にも少人数での外出活動にも取り組み、喜びの声が聞かれている。また、毎日のように散歩へ出かけ、仮設内の住民とも会話を楽しんで頂いている。	職員と一緒に郵便局に行き、窓口で手紙を出す手順など出来る範囲で役割を持って貰い、外出する機会を多くしている。遠くへ出かける時は、職員がトイレ、車椅子が通行できるかを確認し安全・安心して外出できるよう下見している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で金銭管理出来る方には、財布を持って頂き、自由に買い物へ行き、喜びや嬉しさを感じれるよう配慮している。管理出来ない方にも、事務所でお小遣いを預かり、買い物支援の際には欲しいもの、必要な物が買えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から希望がある場合に電話できるように取り組んでいる。電話中は、居室で一人で話して貰えるようにプライバシーの配慮に取り組んでいる。しばらく会話していないご家族にも手紙(暑中見舞い)の作成も計画し支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度管理、換気に努め、不快の無いように配慮している。リビングには職員用の掲示を極力最小限にし、入居者の写真、季節の花や絵はがき、季節の行事に合わせた壁紙を用意したり居心地の良い空間づくりに取り組んでいる。こたつやソファなど、押し付けるような事無く、自由に使用して頂くよう支援している。	行事の写真などが廊下に飾られ、歩行訓練の時に足を止め思い出話から、今までにない話を聞けたりしている。一人ひとりが好きな場所で自分のしたいことをして、ゆったりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事に利用する個人の椅子の他に、こたつ前に個人の座椅子や、ソファを用意し、利用されている。また、施設の至る所に椅子を設け、自由に休んで頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	自分の部屋と言う意識がある方は、こたつやテーブル、居室内の空間作りを楽しまれている。また、自己主張出来ないような方へも、家族との写真や絵、刺し子を飾り、馴染みの物を置くよう取り組んでいる。入居者の方の中には位牌を飾り、毎日手を合わせている。	本人の要望で良く見えるよう、大きな掛時計や大きした家族の写真などを飾り、安心して過ごせるようにしている。職員は、利用者の手芸道具などを目に付く所に置き、自分の部屋と思えるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険なものの事務所管理するなど、安全面の配慮をしている。居室内には、ご本人の状態に合わせ、家具やベッドの位置を配慮し、安全かつ自立した生活が送れるよう、電気の紐を長くしたり、入り口に表札を付けるなど細かな工夫に取り組んでいる。		